

学校財務実践事例集 2012

事務職員の学校財務運営と教育環境整備への関わりを深めるため、日頃から実践している取組みを中心として実践レポートを募集しました。

(昨年までは、財務ウィーク期間中の取組みを中心に募集しました。)

11支部より34件の応募をいただき、各地で様々な取組みをされている様子が伺えました。応募いただいたレポートの概要は次のとおりです。

学校財務実践事例集2012は全事研Web会員ルームで公開しています。
昨年までの「学校財務ウィーク実践事例集」もすべてご覧いただけます。

<http://zenjiken.jp/>

全国公立小中学校事務職員研究会

◎ 「学校財務実践事例集2012」応募一覧

レポートのすべてを、全事研Web会員ルームで公開しています。

No.	タイトル	アプローチの相手	実践レポート概要
1	町予算の執行を通して ～町村合併の取り組みから 共同実施へ～	教育委員会 会員	町村合併時の取り組みを引き継ぎ、新たにスタートした共同実施でさらに充実した内容へと取り組んできた。環境が整っていくなかで、新たな課題もどんどん出てきている。さらに深めた活動を今後も取り組んでいきたい。
2	学校予算編成における 市教育委員会との協働 ～総額予算制の導入～	教育委員会 各学校	学校毎に行っていた予算要求を市内全体で行った。 総額予算で調整を行ったことにより、予算削減をはじめ、効率化・有効活用(不要額の減少)といった効果の他、事務のスリム化、事務職員の意識改革(自校という考えから市全体と言う考え方)にも繋がり、今後の学校予算編成に新たな展開がみえてきた。
3	事務職員だからこそできる アプローチ ①光熱水費削減啓発資料作成 ②会計ソフト統一	教職員 児童生徒	①市内同一の光熱水費削減啓発揭示資料を作成したことで、費用削減だけでなく、学校間連携の実践として強く啓発することができた。 ②学級費等の会計ソフトを統一したことにより、作成にかかる時間や手間が短縮できた。また、市内同一ソフトを使用する事により、職員が市内異動しても会計に対して不安がなくなった。
4	信頼される会計処理を目指して		現在の学校徴収金取扱要領と手引きが学校の実情と合っていない点がある。適正な会計処理を目指し、市内で共通理解を図るために取扱要領と手引きの見直しに着手した。
5	学校徴収金会計適正化の推進	保護者 教職員	静岡県伊東市における学校徴収金会計の適正化推進への取り組みを掲載。取扱標準の制定・学校徴収金会計システムの整備・教員向け広報活動、この3点を同時に実施したことにより適正化と効率化を実現した。現在でもその活動は継続されており、より質の高いものとなっている。
6	「財務勉強会」での取り組みから	事務職員 教職員	高松支部の財務班の実践等を集約し、学校財務を系統化することを考えた。 【実践内容】 ・「財務」についての知識の習得 ・学校財務を系統(図式)化して考える ・教育支援～将来的構想～を考える ・「お仕事BOX」の作成 【成果と課題】 ・「お仕事BOX」CD-ROMの完成 ・学校財務事務の意識改革と啓発
7	教育条件整備の充実を目指して ー教育費について話し合い、 効果的な予算執行を考えるー	事務職員 教職員	教育費について話し合う組織を学校事務職員が中心となり、構築することで、効果的な予算執行が実現するのではないかと考え、各学校の現状を知るための調査を行った。
8	共同実施グループでの財務 に関する取り組みについて ～「共同実施だより」の作成～	共同実施 グループ内 の教職員	財務についての教職員の意識向上をねらい、「共同実施だより」を作成し、配付した。
9	学校経営に参画する財務の 取り組み	教職員 保護者	2年計画の初年度に行った財務で、学校経営に参画するためには何ができるかを考えた。
10	Let's 財務! ～共同実施経営計画をもとに した学校財務への取組～ Part II	管理職 教職員	・共同実施経営計画の重点取組事項を学校財務とし、課題解決に取り組んでいる。 ・目標達成のため、「財務情報リンク集」「総会計化」「職員研修」の3つを実践し、財務情報の共有化が図られている。
11	～学校徴収金等事務マニュアル 作成に向けて～	教育委員会 会員	「学校徴収金等事務マニュアル」の作成に取り組む中で、根拠となる学校徴収金等事務処理要綱(要領)が必要であるということがわかり、その原案づくりも行った。また、私たちが専門的な知識を身に付けるために、会計士による研修会を行った。その中で、責任の明確化と内部牽制制度(チェック機能)による組織の強化が重要であると再認識することができた。

No.	タイトル	アプローチの相手	実践レポート概要
12	学校の実態を踏まえた学習支援の実践	事務職員	横手市は総額裁量制の予算編成であるため、マイナスシーリングの時は備品購入費・教材購入費を簡単に削ってきたようだ。学習支援を念頭に置くとしても復活させたい予算なので支出項目を見直し、予算執行の面から学校を元気に出来ないものか、と思索した実践を紹介したい。
13	やまがた花笠プランを受けて「財務を根底に置いた取り組み」	生徒職員 教育関係者 保護者	「財務」に視点をおいて職場体験を受け入れ、学校のおさいふクイズや、廊下のペンキ塗り等の作業を行い、ともにかかわり学習環境整備に努めた。また、(他の生徒や職員に対しても姿を示すことにより)思いをつなぐことができた。教育委員会指定の公開研に向けて、庶務部として中長期的に取り組んできたチームワークと子どもとかかわっていきこうという姿勢がその後の教職員研究発表会でのレポート発表で(発信することにより)管理職や他の職場の教員にも評価された。
14	「学校じょうほう板」で情報発信	児童保護者(PTA会員) 地域住民 職員	「学校じょうほう板」掲示による学校財務・事務情報の発信により、児童の気づき・職員の理解・保護者の理解度向上。同じ情報を持ち、理解することで教育活動の安定性が増した。
15	簡単にできることから始めた学校財務についての情報発信	地域住民 PTA 教職員	購入備品一覧表の作成・財務状況提案書の作成 事務職員ひとりで出来る財務への取組を行い、組織での取組につなげていくきっかけ作りを行った。取組を行うと同時に、学校の課題発見にもつながり、教育環境を改善することが出来た。
16	学校徴収金の適正な運用体制整備と施設の安全性に関する生徒へのアンケートの実施	教職員 生徒	校内の学校徴収金会計システムを作成し、事務処理の効率化及び平準化を図るとともに、会計未納対策に関する情報の共有化を図った。また、生徒会活動に協力を要請し、校内の施設について生徒からアンケートをとり、生徒と共に「学校生活の安全」について考える体制づくりに取り組んだ。
17	学校徴収金にかかる振替手数料の削減	管理職 PTA	来年度より振替手数料があがるため、保護者負担軽減を図れるか試行錯誤した。結果として負担軽減はできなかったが、今後も継続して努力したい。
18	子どもと一緒に考える学校予算の運営を！ ～みんなの意見を 予算要望に反映させよう～	児童 教職員 教育委員会	児童に直接、学校予算について語りかけ、どのように学校が運営されているのか理解してもらい、どうしたらより過ごしやすい環境になるかを考えてもらった。またその意見を市教委の予算要望に反映させることができた。
19	子どもの目線から学校を見つめる	児童	子どもからの学校に対する要望を書いてもらう。普段職員がなかなか気がつかない子どもの目線から予算を考える機会となった。
20	生徒のみなさんがもっともっと学校を愛してくれるように… 生徒向け「じむだより」発行	生徒	家族が負担しているお金でみんなが学校生活を送れていることを知ってほしい、それを「じむだより」という形で表した。「学校をよくするために」のアイデア募集ボックスを設置した。
21	学校財務を意識した学校予算の校内配当	管理職 教職員	市予算の消耗品費について、校内で予算配当を行った。消耗品費の支出項目や支出額などを教職員も把握しやすくなり、学校予算への意識付けができた。また、支出額を意識することで消耗品費の節約や有効活用につながった。
22	まずは情報発信！ ～児童と職員を対象に～	児童 教職員	1. 児童に向けての事務だよりを作成し、今年度購入した備品と、その扱いについて周知した。 2. 職員に対して、私費会計の扱いについてを中心に、「適正な会計処理」についての講習を行う。
23	備品点検方法の改善	教職員	毎年度先生方をお願いする備品点検の方法について、昨年度の反省を受け、今年度は点検内容の加除修正や、「不明」備品の処理にも目を向け、実施した。点検内容がより具体的になったことで先生方の備品把握の負担が少しは軽減に繋がったのではないかとと思う。また、「不明」備品の把握によって、今後の校内環境整備の必要性を感じた。

No.	タイトル	アプローチの相手	実践レポート概要
24	教職員に対する町会計の周知と節約の呼び掛け	教職員 児童	消耗品費、光熱費等の節約、節電の呼び掛け。 光熱水費の周知や、消耗品のリサイクル等で無駄な執行を減らしていくよう取り組む。再利用や節約・節電の意識が少しずつ定着し、行動に移してくれるようになった。
25	防災整備から防災意識の啓発へ	生徒	生徒自身によるクラスで購入する災害用非常食を検討する活動を実施した。これにより、災害時の状況を考えるきっかけをつくり、生徒の防災に対する意識を向上することができた。
26	備品点検に同行して	教職員	備品の管理や活用における問題点を見つけ改善点を見いだすため、事務職員自ら教材室・特別教室の奉仕作業や教員の備品点検に同行した。備品の使用状況や教科の実情を知り、以前よりも現状を理解し備品廃棄や不足備品の購入計画について支援することができた。今後も同行備品点検を続けていきたい。
27	「いい笑顔」「輝く瞳」「光る汗」につなげる学校財務	教育委員会 管理職 教職員	学校財務ウィークと静岡学校財務マンスに併せ、パンフレットを作成し、事務室掲示や職員会議等で情報発信を行った。学校徴収金の予算と執行の説明では、仕組みが良く分かり、教員と事務の負担軽減のためにも、振替不納を減らすことを共通理解できた。予算要求・配当・執行の説明では見直しを持つことで予算を有効に執行できることを共通理解できた。
28	文書管理と予算の有効執行について	管理職 教職員	職員室や印刷室等の備品・消耗品の整備・不要物廃棄等を行い、「適正在庫」を把握することができ、無駄な支出を削減・保管場所の確保ができた。事務データ管理の見直しをはかり、ハードディスク内フォルダーを統一する研修を進め、経理データは同じフォルダー内に年度別会計別に整理し、次年度予算作成に活用。データの保存場所確定により、処理のスピードアップにつながった。
29	充実した予算委員会を行うための実践	教職員 管理職	他校の予算委員会の情報収集、見学から得たことを本校で実践に生かした。どう子どものために役立つかを視野に入れ、検討しやすい資料作り、分かりやすい説明を行った。その結果、管理職及び教員が大変協力的に予算要求の話し合いを進めてくれた。
30	校外学習時の費用取扱いについて	教職員 管理職	全学年共通理解のもと、校外学習時の費用の取扱いや返金に対するガイドラインを作成した。返金の仕方、費用支出方法が統一された。保護者への説明責任を果たすことができると同時に適正な会計処理につながった。学校職員全体で学校財務を意識して取り組むきっかけができた。
31	掲示板を活用した財務への取り組み	児童 保護者 教職員 地域	事務室前掲示板を活用し、学校の施設・設備について紹介した。特に購入した物や修繕した箇所を金額も載せながら掲示することで、財務について意識を向けること、物や施設を大切に使うことを目的とした。児童や保護者の意識を、少しではあるが財務について向けることができた。
32	予算の有効活用を目指して「みやこだみなみしょうニュース」の発行で、財務を「見える化」	児童 保護者 教職員	大切な予算で購入したものの、修繕したことを「事務だより」を通して周知を図った。使い方の説明や写真を盛り込み、みんながわかりやすいように工夫をすることで、購入品の使用者も増え、執行した予算の有効な活用につながった。
33	電気・水道の使用量削減から環境教育への参画をめざして	生徒 教職員	学校の電気・水道の使用量削減を目的に、過去3年間の使用量を折れ線グラフで表し、生徒の目につきやすい所に掲示した。生徒会とPTAが行う「リサイクル用品回収事業」の責任者となり、実施回数を年1回から年2回とした。このような活動が認められ「徳島県学校版環境ISO」認定校となり、生徒・教職員の環境に対する意識が高まった。
34	学校予算の経費削減に向けて学校備品への関心を高めるために	教職員 児童	教職員に向けて ・「プリントアウト価格比較表」を配布 ・古ファイルの活用の推進 児童に向けて ・学校備品の価格クイズ(壁新聞)